

## こみゆにてい

2002  
VOL. 88

- 巻頭記事・今月の表紙
- 座談会
- シャッターチャンス!
- 職場訪問
- 講演録
- 自由投稿
- わたし流川柳
- 技術入門講座

三菱電機コンピュータユーザ会

## 投稿募集

次号(No.89)では会員の皆様から以下の投稿を募集しています。

「自由投稿」(1,000文字程度)

「名所由来」(1,000文字程度&写真または地図等)

「なんでも川柳」

「シャッターチャンス!」(写真&題目)

原稿または写真をユーザ会事務局までお送りください。

掲載いただいた場合には薄謝を贈呈いたします。

お問い合わせもユーザ会事務局までお願いします。

## こみゆにてい

VOL. 88

## ■発行日

平成14年8月15日(年2回発行)

## ■編集

三菱電機コンピュータユーザ会

広報・電子フォーラム小委員会

(担当理事)

戸田建設(株)

ダイヤモンドリース(株)

(運営委員)

メック情報開発(株)

エム・ピー・エム・シェアードサービス(株)

三菱電機インフォメーションシステムズ(株)

ダイヤモンドリース(株)

(株)ジェー・ケー・エス

清水 道明

保田徳太郎

内野 守

小山 昇一

田野口 修

萩原 義信

山下 純一

## ■発行所

三菱電機コンピュータユーザ会

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-2-3

三菱電機株式会社 インフォメーションシステム事業推進本部内

TEL:03-3218-3205 FAX:03-3218-3223

E-mail:icp.MCU@hq.meico.co.jp



# 三菱電機コンピュータユーザ会

## 定例総会、各支部地区大会開催される

平成14年度の定例総会および各支部地区大会が開催され事業計画が承認されました。  
今年度もいろいろな行事を計画していますので、会員の皆様の積極的な参加をお願いします。



挨拶 三菱電機コンピュータユーザ会  
会長 寺田 和弘氏



来賓挨拶 三菱電機株式会社  
社長 野間口 有氏



来賓挨拶 三菱電機株式会社  
取締役本部長 松田 章氏

### ●定例総会 平成14年4月25日(木) ロイヤルパークホテル

#### 第一部 研究報告会(専門分科会活動報告)

- ①「情報セキュリティの関連研究」チーム
- ②「データマイニング/OLAPによる予測の研究」チーム
- ③「Webコンピューティングの構築研究(XMLの活用)」チーム

#### 第二部 定例総会

#### 第三部 記念講演

「2002「バリアーダカール」優勝への道程」  
株式会社ラリーアート 増岡 浩氏

#### 第四部 懇親パーティ



記念講演  
増岡 浩氏



定例総会会場風景



三菱電機インフォメーション  
システムズ(株)  
笠井社長ご挨拶



三菱電機インフォメーション  
テクノロジー(株)  
松山社長ご挨拶

### 平成14年度三菱電機コンピュータユーザ会事業計画

事業	年月												
	H14 4	5	6	7	8	9	10	11	12	H15 1	2	3	
定例総会、シンポジウム、 新春講演会	◎ 定例 総会								◎ シンポ ジウム	◎ 新春 講演会			
専 門 分 科 会		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
①情報セキュリティの関連研究 ②データマイニングの構築研究 ③Web2.0「ユース」の構築研究		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
全 国 行 事				○			○						
集中セミナー													
海外研修	平成14年度は見送り												
電子フォーラム	←												→
機関紙「こみゆにてい」					○								○
東 日 本 支 部				○	○		○	○					○
例 会				○	○		○	○					○
会員・メカ懇談会								○	○				
セミナー				○	○		○		○				
見学会							○		○				
フォーラム			○					○		○			
懇 親 会													○
メルコン会					○					○			
ボーリング交流会													○
テニス交流会									○				
ワインセミナー					○								
中 部 支 部				◎									
中部地区大会				◎									
セミナー・見学会		○		○				○	○		○		
関 西 支 部			◎										
関西地区大会			◎										
セミナー・見学会					○			○	○		○		
中 国 支 部				◎									
中国地区大会				◎									
セミナー・見学会									○			○	
九 州 支 部				◎									
九州地区大会				◎									
セミナー・見学会		○	○						○		○		○

## 中部支部地区大会

■平成14年6月13日(木) 安保ホール

- 1) 平成13年度活動報告  
平成14年度事業計画
- 2) 講演会
  - ①「IT新時代に強い組織と意識」  
～ユーザから見たeビジネスの行方～  
愛知県立大学 情報科学部 教授 小栗 宏次氏
  - ②「高速ブロードバンドサービスのインパクト」  
株式会社西三河ニューテレビ放送(MICS)  
取締役 通信事業部長 長田 好正氏

### 懇親パーティ



小栗 宏次氏講演



田原 昭典支部長挨拶



長田 好正氏講演

## 関西支部地区大会

■平成14年 5月30日(木) ウェスティンホテル大阪

- 1) 平成13年度活動報告  
平成14年度事業計画
- 2) セミナー  
「XMLの最新技術動向」  
三菱電機株式会社 情報技術総合研究所  
情報ネットワークシステム部 専任 北山 泰英氏
- 3) 記念講演  
「高齢社会を心豊かに」  
医療法人弘生会老寿サナトリウム理事長  
医学博士 北畑 英樹氏
- 4) 懇親パーティ



会場風景



北畑 英樹氏講演

## 中国支部地区大会

■平成14年6月27日(木) メルパルク広島

- 1) 平成13年度活動報告  
平成14年度事業計画
- 2) 記念講演  
「高齢社会を心豊かに」  
医療法人弘生会老寿サナトリウム理事長  
医学博士 北畑 英樹氏
- 3) 懇親パーティ



中国支部地区大会風景

## 九州支部地区大会

■平成14年5月22日(水) シーホークホテル&リゾート

- 1) 平成13年度活動報告  
平成14年度事業計画
- 2) 記念講演  
①「九州における産学官連携の動きについて」  
財団法人九州システム情報技術研究所  
次長 森光 武則氏  
②「福岡ダイエーホークスの戦略」  
株式会社 福岡ダイエーホークス  
球団副本部長 安積 研二氏
- 3) 懇親パーティ



森光 武則氏講演



菅 一郎支部長挨拶



安積 研二氏講演





### 表紙の言葉

撮影者：斎藤 豊氏（三菱製紙株式会社）  
撮影場所：福島県・雄国沼（おぐにぬま）湿原  
撮影時期：7月  
カメラ：ミノルタ α-9xi  
レンズ：28～70ミリ F2.8

福島県・磐梯山の西にそびえる猫魔ヶ岳の火口湖と言われている雄国沼（おぐにぬま）湿原地帯の初夏の風景です。この日は大変に暑いにもかかわらず、高原特有のカラッととしたすがすがしく気持ちの良い一日でした。

## CONTENTS

### 目次

巻頭記事 「一期一会」	2～3
座談会 「e-ラーニングの活用で企業の 人材育成をめざす」	4～10
平成14年度役員	11
定例総会、各支部地区大会	12～13
シャッターチャンス!	14～15
職場訪問 「三菱電機ロジスティクス 京葉事業所殿」	16～17
講演録 2002「バリ～ダカール」優勝への道程	18～21
自由投稿 「山陰本線・余部（あまるべ）鉄橋」	22～23
「わたし流川柳」	23
技術入門講座 「ETCシステム」	24～25
ユーザ会活動報告	26～27

## 巻頭記事

# 「一期一会」

### ●●● はじめに ●●●

平成14年度の当ユーザ会定例総会で理事役員の半数近くの方が交替された。いずれも定年やら社内的人事異動によるもので、止むを得ない理由からではあるが、塚平前会長の場合、会社の任期を残しての退社による会長辞任であっただけに、私としてはいささか周章せざるを得なかった。結局、周囲の口説きにより計らずも私が会長の職をお引き受けせざるを得ない仕儀となりました。役者不足で申し訳ないと思いつつ他の理事役員の方々や、会員各位のご協力により何とか大任を果たしていきたいと考える。

それにしても塚平前会長はじめ今回退任された役員の皆様には、これまでの功績に対してご苦勞様でしたと感謝申し上げます。

### ●●● 私とコンピュータ ●●●

先日、書棚を整理していたら、昭和40年代にNHKのTV放送「現代の経営」に何度か出演させてもらった時の台本が出てきた。その中のひとつ、昭和40年7月25日放送時のテーマは“コンピュータの活用”。出演者は司会が東京工大の松田武彦教授、ゲストが西武百貨店社長の堤清二氏。そしてビジネスマンとして石崎純夫（旧富士銀行）、大下英男（日産自動車）、新村啓（旧三菱石油）の各氏と私の6名であった。

この時の松田教授によるテーマの説明は次のようなものであった。「経営革新の波にのって日本の経営は昭和30年代の初めから長期経営計画の時代に入ったといわれるが、その中心はコンピュータの導入であり、今やアメリカに次いで世界第二のコンピュータ保有国となった。しかし、実際の運用面ではどうか。コンピュータが単なる事務処理や計算の道具ではなく“記憶”の能力の活用によって人間の



菱洋インテリジェンス株式会社  
顧問  
寺田 和弘

行う意思決定にとって代る可能性をもつものである。だからこれを十分に活用していくためには、経営の在り方そのものの再検討が必要であろう。今日はこうした点でコンピュータの活用について考えてみたい。」

これをみると昭和40年代におけるコンピュータの役割が、普及から発展への過程ではあったが、いかに幼稚なものであったかが推察されよう。しかし、コンピュータの活用が将来の経営の在り方に影響を与えてゆくであろうという視点が明確に指摘されていることは興味深い。

結局、この2年後から私は情報システムに係る業務に取り付かれ、昭和45年、システム部門の分社化によって三菱電機さんとのご縁が生じることとなったのである。

### ●●● 縁の不思議 ●●●

文芸春秋誌に「同級生交歓」という写真頁がある。何年前の号だが当時の参議院議員 竹山裕、元東京大学総長 吉川弘之の両氏が載っていた。

吉川記によると、この2人は昭和15年に東京・青山の青南小学校に入学した同級生で第二次世界大戦末期の集団疎開組であったという。だとしたら——そう、彼らは小生と同窓同期生で、当方は1組、彼らは2組の生徒だったことになる。

いつぞや日経新聞で「私の履歴書」を発表していたさる高名な画家が同じ青南小学校の出身で、都立一中（今の日比谷高校）への合格率が都内で1、2を争う有

名校だったことを誇っていたことがある。

私の記憶では当時の学級編成は入学時の成績によって行われていたので、1組の連中の方が出来は良かった筈であるが、2組の2人が有名人となったのはその後の勉強と努力の賜物というべき結果なのかと思われる。

それにしてもこの種の企画を担当する人々は、よく調べ探し出してくるものである。都会では小学校を卒業して40年、50年と経っても交際を保っている例は少ないのではないかと。まして戦災に遭い、戦後の混乱の中で、生まれ育った土地に住まい続けられなかった人々が多いことを考えると、先の2人にしても編集者によって結び付けられた“縁”であったのではないだろうか。

それでもこうした記事を見た者が「あっ、あいつがあの時の——」と思い出して再会するようなこともあるから、“縁”とは随分不思議なもののようなのである。

昔から「縁を大切に」という。私たちが日頃の生活の中でどのくらい人の縁を得てきているか分からないが、存外、無縁の人付き合いに終始していることが多いのではないかと。

よく年賀状の多寡がその人の持つ社会人としての価値評価のバロメータとされることがあるが、しかし多ければ良いというほどのものではあるまい。そうではなく真に“縁”ある交友をどれだけ有しているかということが問題なのであり、「縁の大切さ」とは、心のつながりをもってこそ意味のあるものとなる。

会社や家族のために一生懸命に尽くしてきた人々が、ふと気がついた時、皆の中に自分の存在を認め得るのは旧き良き交友関係の中であることは、男女共通の認識のようである。

自分の道は自分で切り拓かねばならない。だが、それは他を容れないこととは異なるはずである。

人は所詮ひとりでは生きてゆけないのだから、親子、夫婦はもちろん、友人のなかにも心を開いて交際しうる“縁”を大切にしていきたいものである。

### ●●● 一期一会 ●●●

一期一会という言葉がある。茶道の教えでどの茶会でも一生ただ一度だけと考え、常に一生懸命にやらねばならないとする意味だが、そう考えると、わがユーザ会の存在は多くの“縁”を生み出してくれる大切な場であるように思われる。

ユーザもメーカーも、そして貴方も私もこのご縁を生かし、“手をとって共に登らん花の山”を目指したい。



# 平成14年度三菱電機コンピュータユーザ会役員

(敬称略)

## 会長

寺田和弘 三菱インテリジェンス株式会社

## 副会長

島庸元 三菱製紙株式会社  
清水道明 戸田建設株式会社  
吉野訓正 トビー工業株式会社

## 理事

明智憲三郎 三菱電機ビルテクノサービス株式会社  
東口豊 明生システムサービス株式会社  
大鐘稔陽 三菱地所株式会社  
川崎隆 三菱信託銀行株式会社  
久保賢 株式会社ヒロケイ  
酒田紀典 株式会社インテック  
酒井勉 株式会社フジテックニカ  
田原昭典 明鋼材株式会社  
富田嘉明 株式会社キリンビジネスシステム  
中沖義明 メック情報開発株式会社  
保田徳太郎 ダイヤモンドリース株式会社

## 運営委員

磯村信介 新東亜交機株式会社  
内野信守 メック情報開発株式会社  
大関俊夫 東京三菱ふそう自動車販売株式会社  
海保幸正 戸田建設株式会社  
片山郁夫 三菱電機ビルテクノサービス株式会社  
小池直樹 三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社  
小林治一 協栄産業株式会社  
小駒澤研一 三菱インテリジェンス株式会社  
山昇一 エム・ピー・エム・シェアードサービス株式会社  
佐渡英臣 株式会社インテック  
鈴木有正 トビー工業株式会社  
田中湧次 三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社  
田野口修 三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社  
萩原義信 株式会社ヒロケイ  
水戸英勝 株式会社ジェー・ケー・エス  
山下純一 株式会社インテック  
吉田信一 三菱電機アプリケーションサービス株式会社  
鷺嘉博 三菱電機情報ネットワーク株式会社

## 会計監事

上村正昭 株式会社カナデン

## 中部支部

### 支部長

田原昭典 明鋼材株式会社

### 支部幹事

鈴木敏和 株式会社インテック  
樋口真一 名古屋三菱ふそう自動車販売株式会社  
村松憲治 三菱電機情報ネットワーク株式会社 中部事業所

## 中国支部

### 支部長

久保賢 株式会社ヒロケイ

### 支部幹事

伊藤総一郎 株式会社リョーセンエンジニアズ  
岡本利貴 財団法人 広島県環境保健協会

## 関西支部

### 支部長

黒田紀典 株式会社インテック

### 支部幹事

大倉清澄 株式会社インテック  
川波謙二 大阪三菱ふそう自動車販売株式会社  
川野兼義 TOA株式会社  
小路利明 三菱重工業株式会社  
戸川真司 株式会社立花エレクトック  
米重尚也 タイガースポリマー株式会社

## 九州支部

### 支部長

鴨宮寛 株式会社フジテックニカ

### 支部幹事

首藤茂 九州乳業株式会社  
渡邊嘉一 黒崎播磨株式会社

# 平成19年度三菱電機情報システム・ユーザ研究会役員

(敬称略)

## 会長

小野修一 三菱スペース・ソフトウェア株式会社

## 副会長

大窪福一 株式会社カナデン  
清水道明 戸田建設株式会社  
富田嘉明 キリンビジネスシステム株式会社

## 理事

草野尚彦 トビー工業株式会社  
小谷一男 明治安田システム・テクノロジー株式会社  
鈴木康博 株式会社インテック  
田島仁 三菱電機ビルテクノサービス株式会社  
福井信 三菱製紙株式会社  
保田徳太郎 三菱UFJリース株式会社  
吉津耕次郎 三菱地所株式会社

## 会計監事

高澤利親 千代田土地建物株式会社

## 相談役

寺田和弘 イー・エス・エス研究所

## 運営委員

新井利明 株式会社カナデン  
五十嵐浩二 株式会社インテック  
内野守 梅ック情報開発株式会社  
奥川正 戸田建設株式会社  
片山郁夫 三菱電機ビルテクノサービス株式会社  
釘本ひろみ キリンビジネスシステム株式会社  
小池直樹 三菱電機インフォメーションシステムズ株式会社  
小島修一 三菱UFJ信託銀行株式会社  
小山昇一 エム・ピー・エム・シェアードサービス株式会社  
櫻井裕司 三菱インテリジェンス株式会社  
田野口修 三菱電機情報ネットワーク株式会社  
田谷智正 新東亜交機株式会社  
徳丸照夫 三菱電機情報ネットワーク株式会社  
萩原義信 三菱UFJリース株式会社  
松本敏典 三菱電機インフォメーションテクノロジー株式会社  
矢後徳和 トビー実業株式会社  
山下純一 自由創作工房  
吉原勲 三菱電機情報ネットワーク株式会社

## 中部支部

### 支部長(理事)

柳澤哲二 アイサンテクノロジー株式会社

### 支部幹事

伊藤喜代史 三菱電機情報ネットワーク株式会社  
加藤隆男 明鋼材株式会社  
島田吉明 株式会社インテック  
松尾恒雄 日本電子計算機株式会社

## 西日本支部

### 支部長(理事)

岩岸政敏 株式会社インテック

### 支部幹事

大倉清澄 株式会社インテック  
鈴木靖 株式会社新井組  
松室慎二 TUA株式会社  
山根哲夫 株式会社リョーセンエンジニアズ  
米重尚也 タイガースポリマー株式会社

## 九州支部

### 支部長(理事)

鴨宮寛 株式会社フジテックニカ

### 支部幹事

首藤茂 九州乳業株式会社  
濱口新吾 黒崎播磨株式会社



寺田和弘氏は、平成18年度まで31年間にわたって三菱電機情報システム・ユーザ研究会（MEL研）の役員・会長を務められました。みなさまご存知の通り、MEL研のみならず、FISA（情報システム・ユーザ会連盟）<sup>(※1)</sup>の代表の一人として他社のユーザ会と連携して、メーカーや行政とのパイプ役を果たすなど、大きな貢献をなされました。

今号は、座談会に替えて、ゲストに寺田和弘氏をお招きしてのインタビューといたしました。

日本経済界にコンピュータが導入されたその黎明期から情報システムに携わってこられた経験や、長年の役員としてのご活躍からご自身が感じられてきたことを後進に継承すべく、たくさんのお話をしてくださいました。誌面の都合上、全部をお載せできないのは大変残念ですが、その中からぜひ読者のみなさまにも、できる限りをお伝えしたいと願って構成しております。



**プロフィール** 寺田 和弘氏 1934年4月1日生まれ  
**MEL研役員履歴** 1976～1980年度 理事 (5年間) 1976～2000年度 システム監査専門委員 (25年間)  
 1981～2001年度 副会長 (21年間) 2001～2006年度 本委員 (6年間)  
 2002～2006年度 会長 (5年間)

## 前会長 寺田和弘氏を 特別インタビュー お迎えして

聞き手：本誌編集委員会メンバー

### 「生き字引」と呼ばせていただきます

— 寺田さんは、MEL研にとって、生き字引と呼びても良い存在ですね。

**寺田** そうですね。三菱電機さんの情報システムに関する営業の経緯・移り変わりを見てきたという意味で言えば、私が一番知っているかもしれませんね。

### マシンが売れたので……

— お生まれは昭和一桁、9年でいらっしゃいます。大学を卒業後、すぐにリッカーマシンに入社されたのですか？

**寺田** ええ。そこでは販売部の企画担当をやり、労組の役員も5年ほど務めました。

その後マシンの売り上げが非常に伸び始め、200万近いデータが動き出したんです。手作業でやっていたらとても大変だということで、ユニバック・スリーで機械化をスタートさせたのです。

— なんだかコンピュータに携わるお話に聞こえてきました。

**寺田** それが、機械化がうまくいかないんですよ。支店長になって、販売人や集金人に、今月の手数料を、その月に支払えない。現場の責任者としてはえらい大変なことになるわけです。

ところが当社では、今月間違えたら来月直せばいい、という感覚です。現場と本社というのはそういう傾向がどこでも強いんだらうと思いますけれど。

たまたま私は組合三役を経験して、役員とダイレクトに話ができるものだから、「こんなことじゃ、支店の運営がうまくいかない」と、直接文句を言ったんですよ。

そうしたら、「お前がプログラムの管理を見てくれ」ということで、昭和42年に本社へ戻った。3ヶ月くらいは、外部のユニバックの講習会に出っぱなしたかったかな。

どうにかこうにか軌道に乗りだした昭和45年に、コンピュータはとにかく金食い虫だ、独立採算でやらせるべきじゃないかと、電算機室をスピナウトさせようとい日比谷コンピュータという会社ができたと。当時の風潮でしたね。

— なるほど、ところで学生の頃から、コンピュータ時代への予感はありませんか？

**寺田** それはなかったんです。三白景気<sup>(※2)</sup>が起り、それで昭和31年、日本で最初に小野田セメントがIBM製コンピュータを入れたのがちょうど在学中で、見学にも行きましたが、私自身は機械化についてはまだ早いんじゃないかという意見だったのですよ。

### 年表1 寺田さんと迎える概略史



- 昭和 8年 日本、国際連盟を脱退
- 昭和 9年 寺田氏 生まれる
- 昭和27年 三白景気<sup>(※2)</sup>
- 昭和30年～ 神武景気（高度経済成長の始まり）
- 昭和31年 国際連合に加盟  
日本で初のIBM機導入される
- 昭和32年 寺田氏 リッカーマシン入社
- 昭和35年 三菱電機MELCOM1101発表
- 昭和38年 三菱電機MELCOM1530製品化
- 昭和42年 寺田氏 プログラム管理に従事
- 昭和44年 三菱電機MELCOM研究会発足

### 三菱電機との出会い

**寺田** スピナウトしたのはいいけれど、ユニバック・スリーというのは特殊なマシンだったので、何か市場に通用するマシンをもう一つ持たないといけないんじゃないか、ということから、セカンドマシン導入計画が出たんです。

そのとき三菱電機さんが、「うちのを使いませんか」と。ちょうど大型汎用機MELCOM7700を手がけていたところだったんですね。

— 私は、昭和50年頃、三菱電機の機械に乗りかえるというときに、データを日比谷コンピュータに持って行って変換してもらったんですよ。

**寺田** そうでしたか。何をやるか、ということになって、オープンユースで貸すのが一番手っとり早いじゃないの、と。三菱電機さんが一番良い提案を持ってきてくれたので、思い切って昭和47年にMELCOM7700を入れ、同時に教育センターとして、ビルの一部をお貸ししたんですよ。三菱電

機さんが連れてくるお客さんに自由に使っていただき、その分はキックバックしていただく、ということ。

### 日本で最初の住所コード化

**寺田** その後、考えたのが住所コード化です。9桁の住所コードを作ったら、結構それが売れました。

その後、ある信託さんが、「コンピュータによる漢字処理をやりたいので、おたくのコード体系を使わせて欲しい」と申し入れてきた。我々はそれを無償で提供する代わりに、できあがった漢字のアドレスマスターを無償で提供してもらうことにして、それから住所のカナ漢字変換のプログラムを開発して売り出しました。

— お若い頃から、非常に商才があったように聞こえますね。

— その後、第一ソフトェックに移られたのですか。

**寺田** 第一ソフトェックに行ったことでは、逆に随分三菱電機さんに助けってもらったりもしましたよ。

— そういう電機さんとの関わりがユーザ会に繋がったということでしょうね。

### 年表2 寺田さんと迎える概略史



- 昭和45年 三菱電機MELCOM7700製品化  
寺田氏 三菱電機計算機と出会う
- 昭和51年 寺田氏 ユーザ会理事就任  
ロッキード事件
- 昭和55年 三菱電機MELCOM80発表
- 昭和55～60年 IBM産業スパイ事件  
第2次石油ショック  
ウォークマン登場

### おつきあいを大切に

— 寺田さんの記憶力はものすごいんですね。顔と人の名前がきちっと定義されて入っていて、とても真似できません。人脈も、相当なものをお持ちですね。

**寺田** 学生時代、論文が評価されたこともあり、当時の先生方は私のことをみなご存知でした。ずいぶん可愛がっていただいて、特に元横浜国立大学経営学部長の大山政雄という先生にいろいろお世話になりました。

大学を卒業してからも、お付き合いはずーっと続いておりまして、大山先生との関係で、大学の人脈があった。それで私がコンピュータ関係の仕事をやりに出したときに、機械会計をやっている大山先生に、何かいい資料はないか、いい人材は居ないかなどを相談したりしましたね。



田野口委員・山下委員・清水副会長





寺田前会長・玉井委員

また、逆に三菱電機のSEを大学の先生にお世話してきたこともあったりして、いつの間にか非常にご縁が深くなってきた。

— 今の若い人は付き合いで苦労したり、人脈を作れない、広げられないという悩みがあるらしいのですが、その辺あたりでなにか助言がありましたら。

**寺田** まず出身した学校の先生方との交際を通じた世界を一つ作るというのが必要じゃないでしょうか。

### 気配りの寺田

— 《気配りの寺田》と言われるのは、若い頃からですか？

**寺田** 祖父の影響だと思うんですけど、自分が何とかするためには、まず人になんとかなってもらわないと、という気持ちが先に立つんですよ。

人から頼まれると嫌とは言えない性格で、ついつい余計なことを。でも、お陰で逆にいつも人様に助けられてきたと思う。お世話はしたけれども、してもらってききたなと。

— いつも相手の立場に立って考えている、それが気配りに通じている、と感じてきました。それがこころ一番、今度は相手が寺田さんのことを考えてあげよう、ということになるのかもしれないですね。

### 《三菱は面見が良い》という評判が

— 特に思い出に残っている裏話とかありますか？

**寺田** 一番印象に残って今日これだけは話したいと思ったのは、平成7年(1995年)からの10年間にずいぶんいろいろなことがあったな、ということですよ。

その話に入る前に、平成4年、ユーザ会のある大手企業に一時MELCOMに代えて他社のマシンが入るといった話が出たことがあるんですよ。それが私のところに聞こえてきたので、「ちょっと待てよ」と思って、調べてみた。

「これは放っておくと、事が大きくなる可能性がありますよ」と言ったところ、騒ぎが大きくなって、結果的にこの話はなくなりまして。この企業は、あくまでも三菱電機と一緒に最後までやっていきます、と話がついたんです。そんな事件がひとつあった。

もうひとつ、ある会社の導入システムの立ち上げが順調に進まなかったとき、当時私は副会長として、「エンドユーザがメーカーと相談しながらやって、結果的にうまくいかなかったとき、エンドユーザの管理者が責任をとらなければならぬということになると、我々はどこまでメーカーさんを信用していけばよいのか。他のユーザに対する影響も考えていかないといけないから、とにかく三菱電機さんとして、最後まで面倒を見て欲しい」と言ったんです。

それを三菱電機さんは気持ちよく受け入れてくれました。

三菱電機さんは面見が良い、技術的に不足するところがあったとしても、最終的にはなんとかカバーしてくれる、そこが三菱電機の魅力じゃないの、ということも、我々ユーザ側に植え付けてくれたような事件だったのです。

### 年表3 寺田さんと迎える概略史

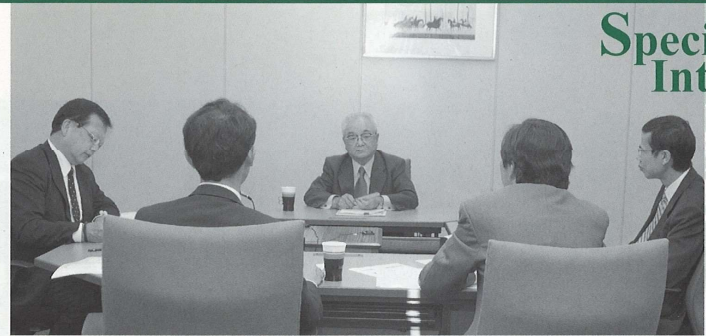
平成 7年	クライアント・サーバシステムが脚光
平成 8年	会名をMELOOM研究会から三菱電機コンピュータユーザ会へ変更
平成 9年	大手金融機関・生保会社相次いで倒産
平成14年	寺田氏 ユーザ会会長就任 住民基本台帳ネットワーク運用開始 小泉首相の北朝鮮訪問
平成15年	会名を三菱電機情報システム・ユーザ研究会へ変更
平成19年	寺田氏 ユーザ会会長勇退

### ユーザ会でお互いに分かること

**寺田** 何かトラブルが起きた時のフォローに関しては、三菱電機さんは良心的にやってくれている、これだけは間違いのない。そういうことが、MEL研の中でお互いに話し合っていると分かってくるんですね。

— 寺田さんが三菱電機の営業マンに成り代わっておっしゃっているようですね(笑)。

**寺田** そうですね。会員同士では、ほかにも新しいマクロ言語を使うとどうだったか、というような話を他社の実際の経験者から聞ける。そういうことを聞いてから踏み切る判断ができたりまするのが、MEL研のいいところだと思うんですよ。



清水副会長・寺田前会長

— 1社だけでは難しいですね。

— 専門分科会に出て、研究メンバーがいろいろ交流するのもいいですよ。

**寺田** いいですね。

— 自力では出来ない体験をやらせてもらえることもありまよ。さらに人脈もできる。スキルも学べますよね。

ところで、歴史を見ると、当初のMEL研は汎用機のお客様が中心でしたが、平成8年にオフコンのお客様が入会するようになったんですよ。そのいきさつは？

**寺田** コンピュータをディーラー経由で買っているけれども、直接メーカーの意見を聞きたいというお客さんが出て来た。この際、汎用機という閉ざされた世界からは出よう。

— その後、平成15年にハードウェア中心ではなく、システムを重視した今の名前「情報システム・ユーザ研究会」となったのですね。

### 最近おもうこと

— 最近はお時間が出来て、何かやろうかと思われていますか？

**寺田** そう聞かれたら答えようと思って持ってきた(笑)。何年か前のキリンラガービールの車内広告なの。私の心情はまさにこれです。

「あくせく働いてきたばかりではないけれど、息を切れせ駆け足で生きてきたつもりもないけれど、少しばかり、自分につらくあたってたような気がしています。みんなに、よかれ。そう思ってやってきたはずだったけれど「みんな」のなかに私が含まれていなかった。ささいなことでもいいから、日に一度か二度、私自身を大切にやろうと、いまさら考えているのです。休み上手になるつもりです。私も大切にやろうと、いまさら考えているのです。」

私らの年代は、終戦直後の飢餓、焼け跡の中で必死になって生きてきた。学費も自分で稼ぐ。就職してからも、私は本業以外に必ずセカンドビジネスをもってやってきたんですよ。会社勤めの給料は全部、お袋や女房に渡す。セカンドビジネスからも一部は渡す。小遣いは残った中から、とずっとやってきた。

その中で、この文章を読んで、「みんなによかれ。そう思っ

てやってきたはずだったけれど「みんな」のなかに私が含まれていなかった。」というのが、俺もそうだったなと。それを切りかえて、あと何年生きられるか分からないけれど、自分を大事にしたいなと。

— 最後に、会長をしておられた頃の心境をお聞かせください。

**寺田** 河井継之助(※3)の言葉とされる、「いづるは、人によるべし。退くは、自ら決すべし」ですね。

でも、70才を過ぎてまで、ユーザ会を手伝ってこれたということ自体、私自身、思いがけないご縁だったなと。

— 今日は、いいお話を聞けてたいへん嬉しいです。長時間、ありがとうございました。



清水副会長・寺田前会長

### コラム 寺田データバンク

15年前からの日記を読み返したうえ、手書きの資料をたくさんお持ちになり見せてくださった寺田さん。しかもインタビュー中は、資料を見ずに、ほんほんど会社名や人名が出て来ます。その記憶力の秘訣をお聞きしました。

**寺田** 「僕は昔からその場でノートを取るのはいらないのよ。毎日日記を付けている。飲んで帰っても翌日に書く。酔っぼらって忘れたことを思い出すのが一つの訓練だね。」

ちなみに、40代の頃は一升酒をお飲みになっていたそうです。



# こみゆにてい

2017  
VOL. 117



- 巻頭記事
- 機関誌のあゆみ
- 座談会
- 活動報告

最終号

三菱電機情報システム・ユーザ研究会

長きにわたり、  
ご愛読ありがとう  
ございました。

# こみゆにてい

VOL. 117 最終号

■発行日

平成29年2月21日

■編集

三菱電機情報システム・ユーザ研究会

広報・電子フォーラム小委員会

(担当理事)

三菱製紙株式会社

山崎 浩一郎

三菱UFJリム株式会社

平本 猛

(担当運営委員)

自由創作工房

山下 純一

トビー工業株式会社

高橋 一哲

三菱電機インフォメーションネットワーク株式会社

田野口 修

三菱UFJ信託銀行株式会社

坂口 和也

明治安田システム・テクノロジー株式会社

安尾 政晃

■発行所

三菱電機情報システム・ユーザ研究会

〒108-0023 東京都港区芝浦4-13-23 (MS芝浦ビル)

三菱電機株式会社

インフォメーションシステム事業推進本部内

TEL: 03-5445-5132 FAX: 03-5445-7782

E-mail: MitsubishiElectric-userkai@mdis.co.jp

<http://www.mitsubishielectric.co.jp/melcomuser/>



# 歴代役員一覧

多くの方々にご尽力いただきました。ありがとうございました。

## MELCON研究会

年度(西暦)	年度(和暦)
1年目	1967年 昭和42年
2年目	1968年 昭和43年
3年目	1969年 昭和44年
4年目	1970年 昭和45年
5年目	1971年 昭和46年
6年目	1972年 昭和47年
7年目	1973年 昭和48年
8年目	1974年 昭和49年
9年目	1975年 昭和50年
10年目	1976年 昭和51年
11年目	1977年 昭和52年
12年目	1978年 昭和53年
13年目	1979年 昭和54年
14年目	1980年 昭和55年
15年目	1981年 昭和56年
16年目	1982年 昭和57年
17年目	1983年 昭和58年
18年目	1984年 昭和59年
19年目	1985年 昭和60年
20年目	1986年 昭和61年
21年目	1987年 昭和62年
22年目	1988年 昭和63年
23年目	1989年 平成元年
24年目	1990年 平成2年
25年目	1991年 平成3年
26年目	1992年 平成4年
27年目	1993年 平成5年
28年目	1994年 平成6年
29年目	1995年 平成7年

## 三菱電機コンピュータウエガ

年度(西暦)	年度(和暦)
30年目	1996年 平成8年
31年目	1997年 平成9年
32年目	1998年 平成10年

年度(西暦)	年度(和暦)
33年目	1999年 平成11年
34年目	2000年 平成12年
35年目	2001年 平成13年
36年目	2002年 平成14年

## 三菱電機情報システム・ユーザ研究会

年度(西暦)	年度(和暦)
37年目	2003年 平成15年
38年目	2004年 平成16年
39年目	2005年 平成17年
40年目	2006年 平成18年
41年目	2007年 平成19年
42年目	2008年 平成20年
43年目	2009年 平成21年
44年目	2010年 平成22年
45年目	2011年 平成23年
46年目	2012年 平成24年
47年目	2013年 平成25年
48年目	2014年 平成26年
49年目	2015年 平成27年
50年目	2016年 平成28年